



町長エッセイ



6月22日から30日まで、関東町村会海外行政調査により北
欧三か国のフィンランド、スウェーデン、ノルウェーを訪問しま
した。

最初の訪問地はフィンランドの首都ヘルシンキ郊外のケラバ市
のバイオ発電所でした。森林豊かなこの国では化石燃料を使用せ
ずに木材を細かくカットした、再生可能な燃料を用いて発電し、
森林とバイオマスの新たな活用が研究されていました。次の訪問
地はスウェーデンのハーニング市でした。若者の政治への参加意
識は非常に高く、国会議員の平均年齢は45歳で、その10%を
29歳以下が占めています。次に訪れたストックホルムのロイヤル

シーポート地区では、20年をかけて石油やガス基地を郊外に移転するという地域開発プロジェクトを調査
しました。環境を保護しながら人間と自然、動植物が共存できる取り組みを実施しています。最後の訪問地は
ノルウェーでした。人口がおよそ2万人のオース町の高齢者施設を調査しました。明るい雰囲気を感じ取れる
施設で、一部民間企業が参入しており、町とともに運営されていました。

北欧三か国は、北緯が60度付近の国でしたので、夏場の明るい太陽に加え、夜中まで太陽が沈まない白夜
を体験しました。それぞれ人口は日本より少ない国でしたが、伝統を守りつつ、住む人々の目は輝き、自信を
感じとることのできる三か国でした。高齢化が進んでいる今日を考えると、非常に貴重な体験ができ、関係者
に感謝し、今後の町政に活かしていきたいと思います。

松本恒夫